

プログラミング支援ツール NP4H-SEDBV3 バージョンアップについて

1. 対象機種

IEC61131-3 準拠プログラミング支援ツール SX-Programmer

形式	品名	最新バージョン	バージョンアップ時期
NP4H-SEDBV3	Expert (D300win)	V3.4.4.0	2008年5月

2. バージョンアップサービスの概要

ホームページからのバージョンアップサービスは、旧版の Expert (D300win) をお持ちの方を対象として、アップグレード機能を用いて最新の Expert (D300win) 使用環境を提供します。

ホームページからのダウンロードにより、最新の Expert (D300win) を容易に取得できます。

SX-Programmer Expert (D300win) V3.4.4.0 用アップデートファイル : ExpertUpdateV3440.exe

3. 最新バージョン V3.4.4.0 の主な変更内容 (2008年5月)

(1) SPH2000 対応機能の拡張

SPH2000 のメールクライアント、ユーザでの汎用通信設定、PODとのパラレルインタフェース接続の各機能に対応しました。

(2) @E. Integrator 対応

4. 主なバージョンアップ履歴

(1) V3.4.3.0 (2007年11月)

①通信設定の COM ポート数を 256 ポートに拡張しました。

②SPH200 対応機能の拡張

SPH200 のシステムプロパティに、構成チェックの待ち時間モードを「構成一致待ち/指定時間待ち」から選択可能とする機能を追加しました。

(2) V3.4.2.0 (2007年8月)

①ボードコントローラ対応機能の拡張

・ボードコントローラの CPU パラメータに、高速入力コネクタへの信号の論理を立ち上がりエッジ/立ち下がりエッジから選択可能とする機能を追加しました。

・ボードコントローラの CPU パラメータの簡易 CPU リンク機能に、リンク局番を外部から設定する機能を追加しました。

・ボードコントローラのカレンダー情報に曜日データとカレンダー書き込み要求を追加しました。

②故障診断機能の改良

SPH300 の故障診断機能に、故障状態を自動解析して表示する「故障解析」機能を追加しました。

(3) V3.4.1.0 (2007年5月)

①SPB の「バッテリー異常検出しない」モード対応

SPB の CPU パラメータに「電池異常検出」の項目を追加しました。

②モニタ値表示の改良

10進表示に「ゼロサプレスあり」、実数表示に「標準の小数点表記」の表示機能を追加しました。

(4) V3.4.0.0 (2007年2月)

①基本機能改良

変数エディタの EXCEL 連携、変数プロパティダイアログ、クロスリファレンス自動更新、プロジェクト比較、ウォッチウィンドウへの配列/構造体登録の、各機能を改良しました。

②ラダーエディタの機能改良

左母線の整列、ワークシート分割、回路コメントジャンプの、各機能を改良しました。

- ③SPH300 ユーザROM運転なしモードへの対応
- ④SPH2000 冗長化CPUモジュール(NP1PM-256H)対応
- ⑤V3.3.7.1の不具合修正

グローバル変数シートの容量が大きい場合、クロスリファレンスの作成を実行するとExpertが強制終了することがある不具合を修正しました。

(5)V3.3.7.1 (2006年12月)

- ①3.3.7.0の不具合修正

SPH200またはSPBに対してプロジェクトをダウンロードすると、アプリケーションエラーになる不具合を修正しました。

(6)V3.3.7.0 (2006年11月)

- ①ボードコントローラ Iリンクオプションカード対応

(7)V3.3.6.0 (2006年10月)

- ①IPアドレスリスト ネットワーク機器検索機能
IPアドレスリスト機能にネットワーク機器検索を追加しました。
- ②ZIPファイルのオフライン保存機能
ZIPファイルをパソコンのディスクに保存する機能を追加しました。

(8)V3.3.5.0 (2006年8月)

- ①サーボシステムFALDIC ALPHA5対応
- ②V3.3.4.1の不具合修正

SPH300EX以外の機種にて、変数名の最後が '_E' のグローバル変数をAT指定するとコンパイルエラーになる不具合を修正しました。

(9)V3.3.4.1 (2006年7月)

- ①高性能CPUモジュール SPH300EX対応
- ②V3.3.3.0の不具合修正

SPH2000(NP1PM-48E/256E)にて、FTPアクセス機能が使用できない不具合を修正しました。

(10)V3.3.3.0 (2006年5月)

- ①パスワード機能の拡充
前バージョンで追加した、PLCオンライン操作の制限設定機能に対し、ユーザにてアクセス制限範囲を設定する機能を追加しました。パスワードによって制限される機能はアクセスレベルごとに設定できます。
- ②クロスリファレンス付きラダープログラム印刷機能追加
プロジェクト印刷機能にて、クロスリファレンス情報をプログラム印刷ページと同一ページに印刷する機能を追加しました。
- ③変数定義ダイアログの設定改善
変数定義ダイアログにて、グローバル変数グループの指定方法の「ワークシートの全変数を表示」機能のデフォルト状態を「設定有り」に変更しました。
- ④変数情報のツールチップ表示
ワークシート上に各変数のデータ形、初期値、コメントなどをツールチップ形式で表示します。

(11)V3.3.2.0 (2006年1月)

- ①パスワード機能の拡張
PLCオンライン操作の制限を設定する機能を追加しました。
本機能を使用してアクセス認証用パスワードを設定することにより、PLCへの操作をレベル1、レベル2、レベル3、の3段階で制限することが可能となります。
- ②変数表示モードの一括リセット 設定
LD/FBDワークシートにおける変数表示モードを一挙動でデフォルト設定に戻す機能を追加しました。
- ③SPH300 ファームウェア対応 (V**65)
 - ・縮退立上げ時間短縮機能
 - ・強制設定状態継続運転

(12)V3.3.1.0 (2005年11月)

- ①ボードコントローラ対応
 - ・システム支援機能の追加
システム構成、CPU動作定義、CPUメモリ割付、高速カウンタ設定、RS485設定
 - ・オンライン機能の追加
コントロールダイアログ、パスワード機能、デバッグ機能、メモリ転送

(13) V3.3.0.0 (2005年8月)

- ①システム定義 未実装操作の改良
1クリックでモジュールの実装/未実装を切り替えることが可能としました。また、未実装一括設定機能の1クリック操作により、構成ツリー上で選択されているモジュールとその階層下のモジュールを一括で未実装に設定または設定解除することができます。
- ②SPH2000対応
新系列CPUモジュールSPH2000に対応しました。

(14) V3.2.1.0 (2005年6月)

- ①製品名称の変更
従来の名称「D300win」より、「SX-Programmer Expert (D300win)」に名称を変更しました。
- ②変数エディタの変更
Microsoft Excel との連携、編集操作の改良、変数の一括挿入等の改良をしました。
- ③プロジェクト編集の改良
圧縮プロジェクト(ZWT ファイル)の解凍、プロジェクトツリーエディタの機能改良をしました。
- ④印刷機能の改良
プロジェクト印刷のページ指定印刷、変数ワークシートの折り返し印刷を追加しました。
- ⑤SPH300 I/O領域拡張への対応
SPH300 (V**64以降)のI/O領域拡張機能に対応しました。

(15) V3.2.0.0 (2005年4月)

- ①カーネル機能のバージョンアップ
 - ・変数定義ダイアログの改善
 - ・ファンクション/FB定義ダイアログの改善
 - ・変数ワークシートの操作改善
 - ・POUグループ機能の追加
 - ・サンプリングトレース機能の拡張
 - ・メッセージウィンドウの改善
- ②プロジェクト履歴機能
ダウンロード成功後 (POU 変更含む) プロジェクトの履歴を保存する機能を追加しました。
- ③故障診断機能の改良
詳細 RAS に表示されるメモリダンプ表示の一部を文書表示します。

(16) V3.1.4.0 (2004年10月)

- ①プロセッサリンクモジュール最大構成数拡張対応
プロセッサリンクモジュール (リンク、FL-net など) の最大構成数を 8 台へ拡張しました。
- ②システム定義の設定追加
システム定義のシステム動作定義設定に「CPU” 0” なしシステム立上げ」設定を追加しました。
システムプロパティのシステム縮退立上げ動作定義に「拡張設定」を追加しました。

(17) V3.1.3.0 (2004年8月)

- ①SPH CPUボード サンプリングトレース機能対応
サンプリングトレース機能を実装した CPUボード (NP3PS-SX1PGS74 V**63) へ接続時、高精度サンプリングトレースが起動するよう対応しました。

(18) V3.1.2.0 (2004年5月)

- ①8kステップPOU対応

SPH300 (V**62以降)のPOU 8kステップに対応しました。

②SX制御ユーティリティの改良

メッセージマネージャによるオンライン接続に対応しました。

これにより、Expert(D300win)と制御ユーティリティが、同一ポートでの同時通信が可能になります。

(19)V3.1.1.0 (2003年12月)

①サンプリングトレース対応

SPH300 (V**61以降)のサンプリングトレース機能に対応しました。

②オンライン機能の改善

故障診断機能において、システム重故障集約情報に表示されるPOU番号に対応したPOU名を表示するように改良しました。

(20)V3.1.0.0 (2003年6月)

①小形PLC SPB対応

SPBのIEC61131-3準拠プログラミングを可能としました。

②SPBシステムソフトユーティリティ

SPBの基本ユニットのシステムソフトウェア(ファームウェア)をSXモード(IEC61131-3準拠言語)に更新できます。

③SX制御ユーティリティの機能追加

データ編集機能を拡張し、時間形、文字列形を追加しました。

バックアップファイルの読み込み、編集機能を拡張し、タブ区切りテキスト形式を追加しました。

(21)V3.0.0.0 (2002年12月)

①新ラダーエディタ

ラダーワークシートの表示/編集を行うラダーエディタを、従来のフリーレイアウト形式から、グリッド枠固定形式に改良しました。これによりキー操作でのプログラミングが容易に行えます。

②変数ワークシートのテーブル化

変数ワークシート(ローカル/グローバル)が表形式となり、変数の整理がし易くなります。

③プロジェクトのプロテクト機能の追加

プロジェクトに対するパスワードによる木目細かいプロテクトが可能となり、セキュリティ性が向上します。

④故障診断機能の改良

構成情報を確認しながら故障情報を解析できるため、故障診断が容易となります。

5. 従来品との互換性

今回のバージョンアップによるプログラムの互換性は下表の通りです。

	旧バージョンで作成のプログラム	V3.4.4.0で作成のプログラム
NP4H-SEDBV3 旧バージョン	○	△
NP4H-SEDBV3 V3.4.4.0	○	○

新バージョンの機能を使用したプログラムは、旧バージョンのExpert(D300win)では非互換が発生します。

6. バージョンアップ方法

(1)パソコンのハードディスクに任意のフォルダを作成します。

(2)作成したフォルダにV3.4.4.0用アップデートファイル「ExpertUpdateV3440.exe」をダウンロードし保存します。

(3)ファイルをダブルクリックします。(アップデートファイルは自己解凍型圧縮ファイルです)

(4)作成したフォルダ内にファイルが解凍されます。

(5)解凍したファイルの「Setup.exe」をダブルクリックします。

(6)インストーラの指示に従い、インストールを行います。

(7)インストールが終わったらExpert(D300win)を立ち上げ、「ヘルプ」メニューの「情報」にて、バージョンがV3.4.4.0になっていることを確認します。

プログラミング支援ツールのバージョンアップは、『Fe library』のページからダウンロードできます。

Fe library ENTER